

# 各国版 Wikipedia の記述を活用した日本のマンガ作品の翻訳書誌作成の試み

安形輝(亜細亜大学)\*

江藤正己(学習院女子大学) 杉江典子(東洋大学)

橋詰秋子(実践女子大学短期大学部)

安形麻理(慶應義塾大学)

大谷康晴(青山学院大学)

\*agata@asia-u.ac.jp

【抄録】日本のマンガ作品がどのように翻訳され国際的に受容されているかを把握するためには翻訳作品のリストが必要であるが、既存のものではなく把握も難しい。そこで、マンガ作品の日本版 Wikipedia の記事を起点として各国版の Wikipedia からの情報を取得し、翻訳作品を把握できるのかを調査した。結果として、日本のマンガ作品の翻訳書誌の拡充の可能性を示すことができた。また、翻訳作品はなくとも、各国版 Wikipedia の記事があるかによって該当作品の国際的な受容について確認できた。

## 1. はじめに

文化として日本のマンガ作品が国際的にどのように受容されているのかを調べるためには翻訳作品を含めた全点リストが必要となる。一方で、翻訳作品は図書館の目録上では必ずしもオリジナルの日本のマンガ作品と紐付けされていない。翻訳作品が作成されるさいには各国ごとに出版事情が異なる、多言語への翻訳状況を一覧できる資料がない等の理由から、これらのリストの作成はきわめて難しい。

筆者らは、既往調査<sup>1)</sup>において、VIAF や SNS の活用をすることで翻訳作品の把握を試みてきた。今回は、日本のマンガ作品に関する各国版 Wikipedia の記事の活用を試みる。本研究の目的は、Wikipedia によって日本のマンガ作品の翻訳書誌の拡充ができるかを明らかにすることである。

また、Howard<sup>2)</sup>らはある図書に関する Wikipedia の記事の有無によって文化的な影響度を測定している<sup>3)</sup>。本研究でも、ある日本のマンガ作品について翻訳作品がなくとも日本語版や他言語版 Wikipedia で記事があることは、前者は国内的な受容、後者は国際的な受容の一端を示すものととらえた。

## 2. データの収集と集計

### 2.1 調査対象としたマンガ

調査対象としたマンガ作品は、先行研究<sup>1)</sup>で取得していた国立国会図書館所蔵の以下の条件を満たす資料となる。1) 図書で、日本の国コード (ISBN-13 では 978-4、ISBN-10 では 4 から始まる) を含む ISBN が付与されている、2) 国立国会図書館分類表の記号 (もしくは国立国会図書館の請求記号) が Y84 から始まる、3) (上記 1)の条

件から実質的に 1980 年頃から 2013 年 12 月末までに出版されている、4) 単巻もの、あるいはシリーズ物の第 1 巻である。

4)の条件は、具体的には dcndl:volume に“0”、“1”、“第 1 巻”、“1 巻”、“第 1 集”、“v.1”、“vol.1”、“volume 1”、“上巻”が含まれるタイトルとした。

最終的に調査対象としたマンガは 29,795 タイトルとなった。

### 2.2 Wikipedia を用いた翻訳作品の調査方法

調査対象の ISBN リストを対象として、日本版 Wikipedia にそれら ISBN が含まれる記事群を検索した。記事群のうちマンガ作品と Wikipedia の記事のタイトル間で編集距離が最も近い記事を作品に関する記事と仮定し、さらに一つの記事が複数作品にまたがっている場合、複数作品のうち、タイトル間の編集距離が最も近いものと紐づけた。その上で各国版の Wikipedia の記事から、ISBN と思われる文字列(チェックディジットで有効と判定された文字列)を抽出した。ただし、Wikipedia ではリンク切れ対策として Internet Archive にアーカイブされたウェブページへの参照を持つことが多く、チェックディジットで検証しても ISBN とよく似た数字列となる場合がある。そのため、事前に Internet Archive 関係のリンクは除去した。ISBN 群の 10 桁ないし 13 桁の最小の ISBN について翻訳作品の ISBN かを手で「翻訳作品」「Wikipedia の記事が元作品でない」「日本のマンガ作品ではない」などの判定を行った。メタデータが不足している場合、適宜、WorldCat や Google などを用いて人手で調査した。

なお、ISBN の操作に関しては isbnlib-3.10.10 を、各国版の Wikipedia の検索については wikipedia-1.4.0、編集距離については Levenshtein-0.12.2 と

いう python のライブラリを用いた。

### 3. 調査結果

#### 3.1 基本統計

上記のような操作によってマンガ作品と紐づけた日本の Wikipedia の記事は 4,605 件(15.5%)であった。さらに、日本以外の各国版で Wikipedia の記事が見つかった作品は、1,766 件(5.9%)であった。

翻訳作品の有無は別として各国語版の Wikipedia の延べ件数は 16,930 件であり、このような識別方法で平均して 9.6 言語の各国版 Wikipedia の記事を識別できたこととなる。このうち、ISBN とと思われる文字列が含まれた記事は 6,877 件となった。これらの作品のうち Wikipedia の記事が日本のマンガの作品と関係ないもの(例えば日本のマンガ作品が ISBN 付きでたまたま言及されている記事)を人手で除いた 6,750 件について言語について集計したものを表1に示す。

表1 Wikipedia の上位言語

Wikipedia	言語	記事数
zh	中国語	1,181
en	英語	1,049
fr	フランス語	536
it	イタリア語	511
ru	ロシア語	437
その他		3,036
		6,750

中国語版 Wikipedia には中国以外に台湾、シンガポールなどの中国語圏の国や地域も含まれる。本のマンガ作品に関しては、Wikipedia において最も記事数が多い英語圏よりも日中国語圏でより多くの記事が作成されていることがわかる。

最小の ISBN-10 あるいは ISBN-13 のうち、Google Books からメタデータが取得でき、翻訳作品と識別できたものは 1,768 件であった。LibraryThing を用いた既往調査 1,041 件と比較して、より多くの翻訳作品を識別できた。さらに最小の ISBN-10 あるいは ISBN-13 以外の ISBN 群、メタデータがないものを追跡調査することでより多くの翻訳作品を識別することが期待できる。

#### 3.2 翻訳作品の上位 5 言語

日本語作品をオリジナルとした翻訳作品であると人手で判定した 1,768 件のうち、ISBN のうち国・言語コードに基づいて、翻訳先となる上位 5 国・言語を集

計したものを表2に示す。

表2 翻訳作品の上位 5 国・言語

国・言語	翻訳作品数
英語	560
台湾	528
フランス語	288
イタリア	136
韓国	79

LibraryThing を対象とした既往調査のさいには、上位 5 言語は英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語であった。今回も英語への翻訳作品が最多であったが、他の情報源では識別できなかった台湾、韓国といった東アジアの国での翻訳作品を識別できたことがわかる。表に掲載はないが中国、香港といった国・地域の翻訳作品も識別できていた。

Wikipedia のロシア語版では日本のマンガ作品に関して多くの記事が作成されていたが、ISBN が含まれる記事はほとんどなく、ISBN がある記事においてもその ISBN の多くは英訳作品であった。

### 4. まとめ

Wikipedia を用いた調査において、欧米の図書館が中心である VIAF や SNS を用いた既往調査において把握が難しかった台湾、韓国をはじめとするアジア圏の翻訳作品を把握することができた。また、翻訳作品が作成されないまでも各国版の Wikipedia で記事が作成されるかで日本のマンガ作品の国際的な受容について確認することができた。

また、今回はマンガを対象としているが、今回の手法は必ずしもマンガに限らず、他のジャンルの翻訳作品の識別にも応用が可能である。

【謝辞】

本研究は JSPS 科研費 JP18K11996 の助成を受けたものです。

【注・参考文献】

- 1) 安形輝ほか. 日本のマンガ著者の国際的な受容: VIAF と日本全国書誌を組み合わせた分析. 2020 年度日本図書館情報学会春季研究集会. 2020. p.29-32.
- 2) 安形輝ほか. ウェブ上の集合知を応用した日本マンガ翻訳書誌作成の試み. 第 69 回日本図書館情報学会研究大会発表論文集. 2021, p. 63-64.
- 3) White, Howard; Zuccala, Alesia. Libcitations, Worldcat, cultural impact, fame. Journal of the Association for Information Science and Technology. 2018, vol.69, no.12, p.1502-1512.